資料４

これまでの総合計画の基本理念等の変遷

	山元町総合計画（第４次） （対象年次：平成 11 年度～平成 22 年度）	未策定　第５次山元町総合計画（中間案） （対象年次：平成 23 年度～平成 30 年度）	山元町震災復興計画 （第５次山元町総合計画） （対象年次：平成 23 年度～平成 30 年度）
社会・経済動向	■　地球環境の問題 ・オゾン層の破壊、地球の温暖化、酸性雨、砂漠化、熱帯林の減少等 ■　世界人口 ・開発途上国での圧倒的な人口増加 ・日本では人口減少と高齢化・少子化 ■　食料資源の不足 ■　情報通信の発達	■　人口減少と超高齢化 ■　地方分権の推進 ■　効率的な行財政運営 ■　協働のまちづくり ■　環境問題への対応 ■　地域産業の振興・育成 ■　ネット社会への対応 ■　交流社会への対応	■東日本大震災 2011 年 3 月 11 日、マグニチュード 9.0 の東北地方太平洋沖地震により引き起こされた大災害。最大震度 7 の強い揺れと国内観測史上最大の津波を伴い、東北・関東地方を中心とする広い範囲に甚大な被害をもたらした。
山元町の状況	■　人口 ・社会増が自然減を上回り微増 ・少子化・高齢化の進展 ・核家族化により世帯数増加 ■　町民 ・活発なサークル活動・クラブ活動 ・町民全体の暮らしを高めるための集落における「協働」する場が課題 ・昔からの知恵と技を持った人材が豊富だが地域教育に活かせていない	■　人口減少（平成 22 年 3 月末現在：16,892 人）と超高齢化 ■　地域産業の停滞 ■　交通ネットワークの充実（平成 21 年、山元 IC－亘理 IC 開通） ■　協働のまちづくり推進 ■　大規模災害への備え ■　厳しい財政状況	■　人口（震災とその後の急激な社会減） 平成 22 年 10 月（16,704 人）⇒平成 23 年 10 月（14,628 人）へと 1,900 人超が減少 ■　約 2,500 世帯の家屋被災、鉄道・道路などの公共交通機関や電気、上下水道など生活に不可欠なライフラインの破壊・寸断、水田、いちご畑、漁港などの生産基盤が壊滅的な被害を受けた ■　被害規模が大きく、町財政のありとあらゆる分野において、長期にわたり、総力を挙げて復旧・復興に取り組むべき ■　震災前からの課題にも取り組む ・人口減少、少子高齢化、にぎわいの創出
まちづくりの理念	**つながりを大切にし生活と生産のなかで 地元の資源を活かしつづける町** 地域資源と人とのつながり／生活と生産とのつながり／人と人とのつながり／町の内と外とのつながり／行政と住民とのつながり 【基本計画】 (1)　人と自然が共生し、安全にくらせるまち（地域環境・都市基盤整備計画） (2)くらしをたかめるための生産をすすめるまち（地域産業活性化計画） (3)支えあいとふれあいのある健やかなまち（総合的保健・福祉計画） (4)一人ひとりの事故実現を応援するまち（総合的教育・文化計画） (5)参加と協働でつくる住民自治のまち（コミュニティ創造計画）	山元町の将来像（案） **「キラリ山元！みんなが笑顔になれる町」** 基本方向Ⅰ　にぎわいと活力ある笑顔がかがやくまちづくり／基本方向Ⅱ　安心と支えあいのある笑顔あふれるまちづくり／基本方向Ⅲ　つながりを大切にする笑顔ふれあうまちづくり 【基本方向（案）】 基本方向Ⅰ：地元で働ける場の確保、一次産品の消費拡大、恵まれた観光資源を生かした賑わいの創造、快適で住みよいまちづくり、豊かな自然環境の保全 基本方向Ⅱ：安心して子どもを産み育てられるまち、次代を担う子どもの教育環境づくり、いくつになっても安心して健やかに暮らせるまち、一人ひとりの自己実現を支援するまち 基本方向Ⅲ：地域協働によるまちづくり、地域の安全・安心の確保、誰もが住みたくなる環境整備、開かれた町政運営	**山元町の将来像 『キラリやまもと！みんなの希望と笑顔が輝くまち』** 基本理念１　災害に強く、安全・安心に暮らせるまちづくり／基本理念２　だれもが住みたくなるようなまちづくり／基本理念３　つながりを大切にするまちづくり 【復興のポイントと方向性】 (1)生活　～心豊かな町民生活を実現する笑顔あふれるまち～ (2)産業　～山元町ブランド産業を復興し、創造する活力あるまち～ (3)保健・福祉　～充実した医療・福祉体制に支えられるまち～ (4)学校教育・生涯学習　～家庭～・地域・学校の協働のもとで夢と志を育むまち (5) 防災・安全・安心 ～自助・共助による防災意識の高いまち～ (6) 都市整備 ～災害に強く人にやさしい利便的なまち～ (7) 環境 ～環境に配慮し、自然エネルギーを活用したまち～ (8) 行財政運営 ～復旧・復興を最優先に行政サービスを提供するまち～